改訂化学の新演習　正誤表　　1刷用

【注】「電子（を）吸引（性・力）」→「電子（を）求引（性・力）」は，どちらの表記も存在しますが後者がより適切と判断して修正しました。数が多いので正誤表には入れていません。

	ページ	問題番号など	訂正行	訂正前（誤）	訂正後（正）	訂正日
本冊	14	21（2）	---	〈文末に追加〉	ただし，O原子は3個のTi原子に正三角形の頂点方向から取り囲まれているものとする．	2023/8/21
本冊	24	42（4）	1行目	存在割合が2番目に少ない	存在割合が3番目に多い	2023/9/15
本冊	30	---	ページ欄外	10^{－3}	10³	2023/7/13
本冊	30	51（1）	---	〈問題文を変更〉	気体の状態方程式<i>PV</i>＝<i>w</i>/<i>M</i>×<i>RT</i>から、気体の密度<i>d</i>〔g/L〕を求める式を導け。ただし，<i>P</i>，<i>V</i>，<i>w</i>，<i>M</i>はそれぞれ気体の圧力，体積，質量、分子量を表し、<i>T</i>は絶対温度，<i>R</i>は気体定数とする。	2024/4/5
本冊	32	---	ページ欄外	10^{－3}	10³	2023/7/13
本冊	34	---	ページ欄外	10^{－3}	10³	2023/7/13
本冊	36	63（3）	---	〈文末に追加〉	（気体定数<i>R</i>＝8.3×10³Pa・L/(K・mol)）)	2024/4/5
本冊	40	73	6行目	〈文末に追加〉	（気体定数<i>R</i>＝8.3×10³Pa・L/(K・mol)）)	2024/6/14
本冊	42	76（4）	---	〈文末に追加〉	（気体定数<i>R</i>＝8.3×10³Pa・L/(K・mol)）)	2024/8/5
本冊	46	84（6）	1行目	〔nm〕	〔cm〕	2023/8/7
本冊	47	85	13行目	求める。	求めよ。	2024/8/5
本冊	47	86	8行目	〈文末に追加〉	（気体定数<i>R</i>＝8.3×10³Pa・L/(K・mol)）)	2024/8/5
本冊	48	87	22行目	混合物（共晶）のみが析出する	混合物（共晶）のみが一緒に析出する	2023/10/23
本冊	48	87	25～26行目	すべて固体で，氷とNaCl・2H₂Oの含水塩が共存する範囲であり，～NaCl・2H₂O含水塩と共晶の共存する範囲である。	すべて固体で，氷と共晶の含水塩が共存する範囲であり，～NaCl・2H₂Oの含水塩と共晶の共存する範囲である。	2023/10/23
本冊	58	108（1）	1～2行目	反応物の濃度<i>C</i>の変化する速さ	ヨウ化水素の分解速度－	2024/5/28
本冊	59	109	グラフ	〈横軸の単位〉10^{－3}	10³	2025/6/17
本冊	59	110	10行目	〈（）内末尾に追加〉	<i>R</i>：気体定数（8.3J/(K・mol)）	2024/7/29
本冊	60	111	1～4行目	〈問題文を変更〉	下表は，右図のような装置を用いた鉄（III）イオンを触媒とする過酸化水素の分解反応で発生する酸素の体積から，過酸化水素水のモル濃度[H₂O₂]の時間による変化を求めたものである。	2024/8/19
本冊	64	118	7行目	〈文末に追加〉	（気体定数<i>R</i>＝8.3×10³Pa・L/(K・mol)）)	2024/8/5
本冊	66	123問題文	1行目，3行目	少量の，√3＝1.73とする。	0.010mol，√3＝1.73，√5＝2.24とする。	2025/4/14
本冊	66	123（1）	2行目	40mLを要した。	27mLを要した。	2025/4/14
本冊	66	123（3）	3行目	平衡定数は2.0	平衡定数は3.0	2025/4/14
本冊	67	125	2行目	〈文末に追加〉	（気体定数<i>R</i>＝8.3×10³Pa・L/(K・mol)）)	2024/8/5
本冊	67	126（2）	5行目	〈文末に追加〉	（気体定数<i>R</i>＝8.3×10³Pa・L/(K・mol)）)	2024/8/5
本冊	69	128（5）	2行目	相対温度	相対湿度	2023/7/14
本冊	70	129	反応式の左辺	＋K[＋]	＋KOH	2023/7/14
本冊	70	129（1）	---	〈冒頭に追加〉	①の化学平衡の平衡定数<i>K</i>_Cは，次式で表すことができる。<i>K</i>_C＝（[18-クラウン-6・K[＋]錯体]）/（[18-クラウン-6][K[＋]]）	2023/7/14
本冊	71	---	ページ欄外	〈ページ左上に追加〉	問題130，131で，必要があれば，水のイオン積[H[＋]]［OH[－]］＝1.0×10^{－14}〔mol/L〕²を用いよ。	2024/5/2
本冊	71	131（4）	1行目	NH₄Cl水溶液100mLを	NH₄Cl水溶液150mLを	2023/9/25
本冊	72	132	11行目	下の(3)	下の(4)	2024/5/20
本冊	72	132（2）	---	モル溶液	モル濃度	2024/5/20
本冊	74	---	ページ欄外	〈ページ右上に追加〉	問題136～139で，必要があれば，水のイオン積[H[＋]]［OH[－]］＝1.0×10^{－14}〔mol/L〕²を用いよ。	2024/5/2
本冊	84	157	14行目	[CO₃²]	[CO₃^{2－}]	2023/8/21
本冊	85	159（3）	2行目	(mol/L)	(mol/L)⁻¹	2024/8/2
本冊	86	160（2）	---	2Cl₂	Cl₂	2023/8/1
本冊	86	161	1行目	［A］～［C］の各実験を	［A］～［D］の各実験を	2024/6/19

	ページ	問題番号など	訂正行	訂正前（誤）	訂正後（正）	訂正日
本冊	100	185	10行目	〈気体定数の式の後に追加〉	，ファラデー定数<i>F</i>＝9.65×10⁴C/mol	2023/8/1
本冊	101	187（6）	3行目	〈文末に追加〉	（ファラデー定数<i>F</i>＝9.65×10⁴C/mol）	2024/8/5
本冊	103	189	1行目	9.6	9.65	2023/8/17
本冊	104	190	8行目	<i>E</i>°	〈削除〉	2023/9/22
本冊	104	190	9行目	また，2つの金属の	また，任意の2つの金属の	2023/9/22
本冊	104	190	15行目	1mol/Lの場合の値であり，	1mol/Lの場合の値（これを標準起電力という）であり，	2023/9/22
本冊	104	190	20行目	〈（）内に追加〉	<i>E</i>：起電力，<i>E</i>°：標準起電力	2023/9/22
本冊	104	190	表左列	Hz	H₂	2023/9/22
本冊	104	190	表右列	標準電極電位<i>E</i>°	標準電極電位	2023/9/22
本冊	104	190	表下	<i>E</i>°の高い金属ほど	<i>E</i>°の値が高い金属ほど	2023/9/22
本冊	104	190（1）	1行目	次の電池の起電力	次の電池反応の起電力	2023/9/22
本冊	113	205〔問〕	4行目	Si＝24	Si＝28	2023/8/1
本冊	132	235	選択肢2行目	硫酸鉄（II）	塩化鉄（II）	2025/4/14
本冊	139	243	問題タイトル	ランベント・ベールの法則	ランベルト・ベールの法則	2025/2/10
本冊	140	244（3）	1～2行目	それぞれ何種類の立体異性体が	立体異性体を含めてそれぞれ何種類の異性体が	2024/9/3
本冊	151	267［B］	Dの構造式	〈右側のOHとH〉	〈位置を入れ替える〉	2023/8/21
本冊	151	268	3行目	炭素原子には	炭素原子に	2024/7/31
本冊	195	195（3）	---	図1，図2の	図1の	2025/7/7
本冊	205	355	表　システインの側鎖	H-S-(CH₂)₂-	H-S-CH₂-	2024/12/24
本冊	205	355①	2行目	メチオニン	システイン	2024/12/24
本冊	209	361	問題タイトル	トレオニン・酒石酸の立体異性体	トレオニンの立体異性体	2024/7/31
本冊	211	364	2行目	単量体は	単量体bは	2023/9/25
本冊	216	372（3）	2行目	〈文末に追加〉	気体定数<i>R</i>＝8.3×10³Pa・L/(K・mol）)とする。	2025/6/30
本冊	370	370	10～11行目	凝固させる	塩析する	2024/8/19
本冊	217	373	9行目	〈文末に追加〉	（気体定数<i>R</i>＝8.3×10³Pa・L/(K・mol）））	2024/8/5
別冊解答	2	1　解説 (4)④	全文	同族元素のイオン半径は，原子半径と同様に説明できるが，同周期元素では，ふつう1，2，13 族元素はその周期の1 つ前の周期の貴ガスの電子配置をもつ陽イオンになるので，この順にイオン半径は小さくなる。16，17 族元素はその周期の貴ガスの電子配置をもつ陰イオンになるので，この順にイオン半径は大きくなる。つまり，原子番号とイオン半径は一定の傾向を示さない。	同族元素のイオン半径は，原子半径と同様に説明できる。一方，同周期元素では，1，2，13 族元素はその周期の1 つ前の周期の貴ガスの電子配置をもつ陽イオンになるともとの原子半径よりも小さくなる。16，17 族元素の原子はその周期の貴ガスの電子配置をもつ陰イオンになるともとの原子半径よりも大きくなる。つまり，原子番号とイオン半径は一定の傾向を示さない。	2024/4/2
別冊解答	4	4　解説（3）	12行目	〈Fの周囲の「・」の数〉	〈1個削除して7個に〉	2025/4/9
別冊解答	17	21　解説（2）	---	〈全文差し替え（補足は削除）〉	〈図版リスト：1に差し替え〉	2024/5/3
別冊解答	28	40　解説（3）	7行目	〔 mol 〕	〔 /mol 〕	2024/4/29
別冊解答	28	40　参考	23行目	〈数式中の数字2か所〉4	8	2024/4/29
別冊解答	29	42　解答（4）	---	2.6%	11%	2023/9/15
別冊解答	29	42　解説（4）	1～ 6行目	2番目に存在割合の少ないBCl₃分子は，存在割合の少ない¹⁰Bを含む。⑶の考察より，③と④では，0.76×3＞0.24 より，③＞④。よって，2 番目に存在割合が少ないのは，¹⁰B³⁵Cl³⁷Cl₂である。その存在割合〔%〕は， 0.20×0.76×（0.24）2×3×100＝2.64〔%〕	3番目に存在割合の多いBCl₃ 分子は，存在割合の多い¹¹Bを含む。⑶の考察より，②と③では，0.76＞0.24 より，②＞③。よって，3 番目に存在割合が多いのは，¹¹B³⁵Cl³⁷Cl₂ である。その存在割合〔%〕は， 0.80×0.76×（0.24）2×3×100＝10.51≒11〔%〕	2023/9/15
別冊解答	43	65　解答（3）	---	5.6g	5.7g	2024/5/8
別冊解答	43	65　解説（2）	4・9行目	52.4	52.38	2024/5/8
別冊解答	43	65　解説（2）	10行目	42.88	42.85	2024/5/8
別冊解答	43	65　解説（3）	5行目	52.4	52.38	2024/5/8

	ページ	問題番号など	訂正行	訂正前（誤）	訂正後（正）	訂正日
別冊解答	43	65　解説（3）	6行目	5.6	5.72≒5.7	2024/5/8
別冊解答	60	89　解答（4）	反応式左辺	5O₂	5O₂（気）	2024/9/3
別冊解答	70	102　解答（3）	---	7.0〔cm〕	11.9〔cm〕	2023/7/14
別冊解答	70	102　解説（3）	5～ 6行目	(0.500/80)：(0.400/40)＝4.40：z ∴　<i>z</i>＝7.04≒7.0〔cm〕	26×(0.500/80)：44×(0.400/40)=4.40：z ∴ <i>z</i>＝11.91≒11.9〔cm〕	2023/7/14
別冊解答	73	107　解答（4）	---	O₂の生成速度0.080mol/L・分	O₂の生成速度0.0794mol/L・分	2024/5/30
別冊解答	73	107　解説（2）	2行目	<i>k</i>＝0.294〔/分〕	<i>k</i>＝0.2941≒0.294〔/分〕	2024/5/30
別冊解答	73	107　解説（3）	1行目	＝0.294×0.540＝0.159	＝0.2941×0.540＝0.1588≒0.159	2024/5/30
別冊解答	73	107　解説（4）	5行目	0.5である。	0.5より，	2024/5/30
別冊解答	73	107　解説（4）	6行目	NO₂の生成速度　0.159×2＝0.318〔mol/L・分〕	<i>v</i>_{NO₂}　0.1588×2＝0.3176≒0.318〔mol/L・分〕	2024/5/30
別冊解答	73	107　解説（4）	7行目	O₂の生成速度　0.159×0.5＝0.080〔mol/L・分〕	<i>v</i>_{O₂}　　0.1588×0.5＝0.0794〔mol/L・分〕	2024/5/30
別冊解答	74	108　解答（1）	---	<i>dC</i>/<i>dt</i>＝－<i>kC²</i>	－<i>dC</i>/<i>dt</i>＝<i>kC²</i>	2024/5/30
別冊解答	74	108　解説（1）	2～3行目	反応物の濃度<i>C</i>の変化する速さ	ヨウ化水素の分解速度－	2024/5/30
別冊解答	74	109　解説	3行目	A点とB点の値で	A点とB点の値（グラフの横軸は10³倍した値なので，10^{－3}したもとの値を用いる）で	2025/6/17
別冊解答	83	123　解答・解説	---	〈問題変更により全文差し替え〉	〈図版リスト：2に差し替え〉	2025/4/14
別冊解答	90	132　解説（2）	7行目	モル溶液	モル濃度	2024/5/20
別冊解答	97	142　解説（1）	6行目の反応式右辺	H₂O	NaCl	2024/8/21
別冊解答	101	148　解説（1）	7行目	〈［H[＋]］から始まる式の末尾に追加〉	……①	2024/8/19
別冊解答	106	157　解説ア	7行目	=1.21	=1.20	2024/10/30
別冊解答	106	157　解答イ	---	2.0×10^{－3}	2.0×10^{－6}	2023/8/17
別冊解答	107	157　解説(ii)	8行目	1.21×10^{－2}	1.21×10^{－5}	2023/8/17
別冊解答	107	157　解説(ii)	9行目	2.01×10^{－3}	2.01×10^{－6}≒2.0×10^{－6}	2023/8/17
別冊解答	110	161　解説（1）～（3）［D］	7行目の反応式右辺	Mn^{2＋}	2Mn^{2＋}	2024/7/29
別冊解答	112	163　解説	12行目	NaC₂O₄	Na₂C₂O₄	2024/6/19
別冊解答	112	163　解説（2）	5行目	KMnO₄[－]	KMnO₄	2024/5/20
別冊解答	112	163　解説（2）	7行目	C₂O₄^{2－}	Na₂C₂O₄	2024/5/20
別冊解答	113	164　解説（1）	4行目の反応式右辺	O₂＋2H₂O	O₂＋H₂O	2024/4/7
別冊解答	113	164　解説（2）	1行目	Na₂S₂O₂	Na₂S₂O₃	2024/10/30
別冊解答	115	168　解説（2）	10行目の反応式	2O₂O₃²⁻＋2e⁻→S₄O₆²⁻	2O₂O₃²⁻→S₄O₆²⁻＋2e⁻	2024/8/20
別冊解答	129	187　解説（6）	7行目	4.05	405	2023/8/17
別冊解答	131	190　解説（1）	6・19行目	電池	電池反応	2023/8/17
別冊解答	131	190　解説（2）	5行目	電池	電池反応	2023/8/17
別冊解答	131	190　解説（3）	2行目	希釈直後は	希釈直後では	2023/8/17
別冊解答	131	190　解説（3）	13行目	この電池の反応式は	この電池反応のイオン反応式は	2023/8/17
別冊解答	131	190　参考	3・5行目	電極電位	単極電位	2023/8/17
別冊解答	131	190　参考	0	電池のイオン反応式が	この電池反応のイオン反応式が	2023/8/17
別冊解答	140	200　解答（3）(b)	---	褐色	黒褐色	2024/4/5
別冊解答	141	202　解答（3）	2～ 5行目	NOとともに～ 予想される。	NOだけでなくH₂も発生する。さらに，NOはH₂によって還元される反応も同時に進行するので，NO，N₂O，N₂などの混合気体が発生すると予想される。	2023/8/27
別冊解答	151	216　解答（4）	---	10.2	10.5	2023/9/29

	ページ	問題番号など	訂正行	訂正前（誤）	訂正後（正）	訂正日
別冊解答	152	216　解説（4）	8行目以降	〈差し替え〉	∴　[OH[－]]＝2x＝(2/∛2)×10^{－11/3}＝2^{－1/3}×2×10^{－11/3}＝2^{2/3}×10^{－11/3} pOH＝－log₁₀[OH[－]]＝－log₁₀（2^{2/3}×10^{－11/3}） ＝11/3－2/3 log₁₀2＝3.47 pH+pOH＝14より pH＝14－3.47＝10.53≒10.5	2023/9/29
別冊解答	170	235　解答，解説	解答H，最終行	FeSO₄	FeCl₂	2025/4/14
別冊解答	171	238　解答⑥	---	KFe［Fe（CN）］₆	Fe₄［Fe（CN）₆］₃	2024/10/28
別冊解答	171	238　解説（c）	2～3行目	〈反応式を変更する〉	4Fe+3K₄［Fe（CN）₆］→Fe₄［Fe（CN）₆］₃↓（濃青）+12K⁺	2024/10/28
別冊解答	175	243　解答（3）	---	<i>C</i>=3.0×10⁻⁶〔mol/L〕	<i>C</i>=3.0×10⁻⁸〔mol/L〕	2024/7/23
別冊解答	176	243　解説（3）	8行目	<i>C</i>=3.0×10⁻⁶〔mol/L〕	<i>C</i>=3.0×10⁻⁸〔mol/L〕	2024/7/23
別冊解答	183	249　参考 環式化合物の～	一番目の反応式	〈左辺の三員環〉OH₂	CH₂	2024/9/18
別冊解答	188	254　解説	左段6行目	（2）	〈削除〉	2023/8/21
別冊解答	188	254　解説	右段13行目	〈行頭に追加〉	（3）	2023/8/21
別冊解答	195	261　解説（2）（ii）	---	〈文末に追加〉	つまり，この油脂1molに付加しうるI₂は6molである。また，定義より，油脂100gに付加しうるI₂（分子量254）のグラム数がヨウ素価であるから，（100/878）×6×254≒174	2024/7/31
別冊解答	211	276　解答（3）	1番目の反応式	〈行頭に追加〉	（イ）	2024/7/31
別冊解答	211	276　解説	10行目	アセントが生成する。	アセトンが生成する	2024/4/5
別冊解答	211	276　解説	右段24行目	＝135　　∴　<i>n</i>=1	＝137　　∴　<i>n</i>≒1	2024/7/10
別冊解答	216	282　解説（2）	3番目の反応式	〈（副）の化合物の構造式〉	〈*を削除する〉	2024/7/26
別冊解答	230	299　解答（2）	---	アルキド樹脂	グリプタル樹脂（アルキド樹脂）	2024/4/12
別冊解答	231	299　解説（2）	反応式の説明文	アルキド樹脂	グリプタル樹脂	2024/4/12
別冊解答	231	300　補足	（b）の反応式	〈2番目，3番目の化合物の構造式〉	〈1番目の化合物と同じ位置にCを追加する〉	2024/7/17
別冊解答	250	318　参考〈後者〉	後ろから8行目	一且	一旦	2024/12/24
別冊解答	259	327　参考	5,7行目	ヒドロキシケトン基	α-ヒドロキシケトン基〈2か所〉	2024/8/19
別冊解答	276	341　解説　硫黄反応	6行目	メチオニンでも呈色するが，	メチオニンの	2024/8/19
別冊解答	289	356　解答（1）	---	-Gys-	-Cys-	2024/7/31
別冊解答	302	369　解答（2）	---	0.2mol/L	2）2R－SO₃H＋CaCl₂2 ⇄（R－SO₃）₂Ca＋2 HCl，0.2mol/L	2023/8/21
別冊解答	305	372　解答（3）	---	98.5Ｌ	99.6Ｌ	2025/6/30
別冊解答	306	372　解説（3）	5行目	〈差し替え〉	〈図版リスト：3に差し替え〉	2025/6/30
別冊解答	307	372　解説（6）	反応式	CH₂〈3か所〉	CH₃	2025/7/10
別冊解答	318	383　参考　光透過性高分子	2行目	結晶しにくい	結晶化しにくい	2024/7/31

<></>で囲まれた部分は以下のような文字です

下線　<u>□ </u>

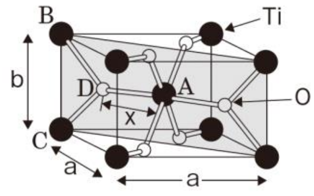
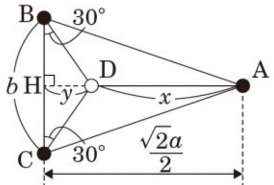
イタリック　<i>□</i>

太字　□

上付き　[□]

下付き　_□

ページ	問題番号など	訂正行	訂正前（誤）	訂正後（正）	訂正日

1　別冊解答　p.17　問題21　解説（2）	(2) TiO_2の結晶を網線をつけた面で考えると，  a = 0.45nm，b = 0.30nm 題意より，∠BDC＝120°なので，△BDCは底角30°の二等辺三角形である。  △BDHにおいて，DH：BH＝$y:\frac{b}{2}=1:\sqrt{3}$より $\therefore y=\frac{b}{2\sqrt{3}}=\frac{\sqrt{3}\,b}{6}$ 求める長さx＝AH－DH＝$\frac{\sqrt{2}\,a}{2}-\frac{\sqrt{3}\,b}{6}=\frac{3\sqrt{2}\,a-\sqrt{3}\,b}{6}$ a＝0.45nm，b＝0.30nmを代入すると $x=\frac{3\times1.41\times0.45-1.73\times0.30}{6}=0.230\fallingdotseq0.23$〔nm〕
2　別冊解答　p. 83　問題123　解説・解答	**▶123** (1) **5.0**　(2) **0.69 mol**　(3) **1.6 mol**　(4) (エ) **解説**　(1) 反応溶液中に存在する未反応のCH_3COOHとH_2SO_4(触媒)が$NaOH$水溶液で中和される。(加熱していないので，酢酸エチルは加水分解されない。) 反応液に残った酢酸の物質量をx〔mol〕とすると，CH_3COOHは1価の酸，H_2SO_4は2価の酸，$NaOH$は1価の塩基なので，次式が成り立つ。 $(x\times1+1.0\times10^{-2}\times2)\times\frac{2.0}{100}=0.20\times\frac{27}{1000}\times1$ $\therefore\quad x=0.25$〔mol〕 $\begin{array}{lcccc} & CH_3COOH & +\ C_2H_5OH & \rightleftarrows\ CH_3COOC_2H_5 & +\ H_2O \\ \text{反応前} & 1.0 & 1.2 & 0 & 0\ \text{〔mol〕} \\ \text{(変化量)} & -0.75 & -0.75 & +0.75 & +0.75\text{〔mol〕} \\ \text{平衡時} & 0.25 & 0.45 & 0.75 & 0.75\ \text{〔mol〕} \end{array}$ $K=\frac{0.75\times0.75}{0.25\times0.45}=\frac{2.25}{0.45}=5.0$ (2) 温度が変化しなければ，Kは一定である。酢酸エチルがx mol生成して平衡状態になったとすると $K=\frac{\left(\frac{x}{V}\right)^2}{\left(\frac{1.0-x}{V}\right)^2}=5.0$ 完全平方式なので，両辺の平方根をとると， $\frac{x}{1.0-x}=\pm\sqrt{5}=2.24$　(負号は捨てる) $x=0.691\fallingdotseq0.69$〔mol〕 (3) 酢酸とエタノールを$x$〔mol〕ずつ反応させたとすると，平衡時には酢酸とエタノールが1.0 molずつ反応し，酢酸エチルと水は1.0 molずつ生成しているから，

2　別冊解答　p.83　問題123　解説・解答	$K=\dfrac{\left(\dfrac{1.0}{V}\right)^2}{\left(\dfrac{x-1.0}{V}\right)^2}=3.0$……① $3x^2-6x+2=0$ $x=\dfrac{3\pm\sqrt{3}}{3}$ $x>1.0$ より，$x=0.42$(不適)　∴　$x=1.58\fallingdotseq1.6$〔mol〕 ［**別解**］①式の左辺は完全平方式なので，両辺の平方根をとり，これを解いてもよい。 $\dfrac{1.0}{x-1.0}=\pm\sqrt{3}$　(負号は捨てる) $\dfrac{1.0}{x-1.0}=1.73$　　∴　$x=1.58\fallingdotseq1.6$〔mol〕 (4) 濃硫酸は脱水作用を示すとともに，エステル化反応の触媒として働く。触媒は，正反応・逆反応の速度をいずれも大きくし，平衡状態に到達するまでの時間を短縮させるが，平衡そのものは移動させないので，平衡定数Kの値は変化しない。
2　別冊解答　p.306　問題372　解説（3）	アセチレンの物質量は，$\dfrac{108}{54n}\times2n=4.0$〔mol〕 状態方程式$PV=nRT$より， $V=\dfrac{nRT}{P}=\dfrac{4.0\times8.3\times10^3\times300}{1.0\times10^5}=99.6$〔L〕